

第2章

基本目標

	ページ
第1節 目指すべき環境像	・・・10
第2節 新たな基本目標	・・・12

第2章

基本目標

● 第1節 目指すべき環境像

「目黒区基本構想」（平成12年10月策定）においては、「環境と共生する」ことを基本理念の一つとして掲げ、その実現を目指し、「ともに作るみどり豊かな人間のまち」をまちづくりの方向と定め、4つの基本目標に沿って各種施策を推進していくこととしています。本計画では、旧計画を受け継ぎ、目黒区基本構想における基本目標の一つである「環境に配慮した安全で快適なまち」を踏まえ、「地域と地球の環境を守りはぐくむまち」を目指すべき環境像として定め、環境面からのまちづくりの推進を図ります。



注：※印が付されている用語については、巻末附属資料の「用語説明」を参照。

目黒区基本構想と 目黒区環境基本計画の関係

目黒区基本構想（抜粋）

基本理念

2 環境と共生する

「環境と共生することなしに真の人間性の尊重はあり得ない」という視点に立って、少しでも環境負荷を減らし、自然を守り、良好な都市環境の保全改善に努めることを、目黒区行政のあらゆる分野に共通する基本課題として位置付けるとともに、区民一人ひとりが、自らの行動による環境への負荷を極力少なくし、身近な都市環境の改善に取り組む社会をつくります。

まちづくりの方向

『 ともにつくる みどり豊かな 人間のまち 』

基本目標

(4) 環境に配慮した安全で快適なまち

目黒区は、良好な住環境と貴重な自然を守り、はぐくむとともに、地域の特性に配慮した市街地の形成や人にやさしい都市基盤施設の整備などを進め、環境にやさしい、いつまでも安心して住み続けることができるまちを目指します。

また、これらのまちづくりに当たっては、区民、事業者、行政がそれぞれの立場に応じた役割と責任を果たしていくため、多様な参加と協働の仕組みづくりを進めます。

目黒区環境基本計画の環境像

地域と地球の環境を守りはぐくむまち
—めぐるからの挑戦—

基本目標 1

暮らしの中から環境を守りはぐくむ

基本目標 2

身近な行動から環境を守りはぐくむ

基本目標 3

環境を守りはぐくむ人づくり

● 第2節 新たな基本目標

目指すべき環境像「地域と地球の環境を守りはぐくむまち」を実現するためには、区民、事業者、区の協働による環境配慮の取組みが必要です。区民や事業者にとって理解しやすい計画とし、環境配慮行動を推進するため、次の3つの視点で見直しを行いました。

視点

1

日常生活や事業活動が、大気や水、みどりなどの自然環境にどのような影響を与えているかを、一人ひとりが理解できるようにする。区民や事業者が、環境問題を身近な問題として捉え、行動できるようにする。

視点

2

一人ひとりの身近な行動が、地域や地球にやさしい社会の形成につながっていくことを実感できるようにする。環境に対する取組みを、一人ひとりの身近な行動をベースに共に行動できる、目黒区の環境ルールとして定着させる。

視点

3

上記1、2の実現には、環境学習や体験による、気づき、意識改革、行動の変化が必要である。また、地域主導で環境に取り組んでいくための担い手づくり＝「人づくり」を実現するため、環境学習を推進する必要がある。

このような環境配慮の取組みを促進するため、旧計画の5つの基本目標を、3つにまとめ、それぞれの基本目標を親しみやすい表現へと変更しました。

3つの基本目標に対応した課題は次に示すとおりです。

次ページから新たな基本目標と

イメージ・ビジョンを示します。

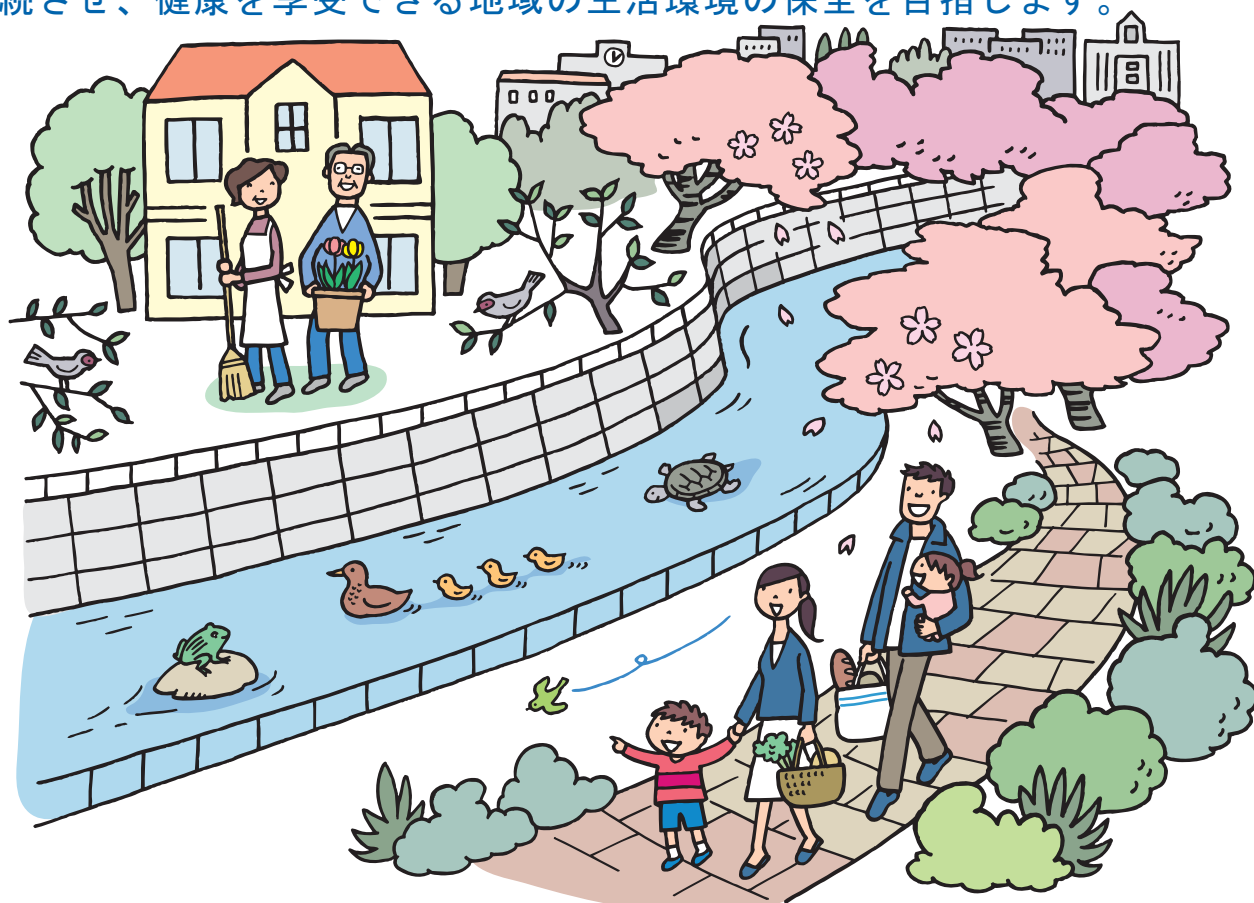


基本目標 1 「暮らしの中から環境を守りはぐくむ」

イメージ・ビジョン

私たちが暮らす身のまわりには、すがすがしい空気や水があり、健康的に暮らすことができます。まちにはみどりがあふれ、野鳥をはじめとするさまざまな小動物が生息し、まちの中でも四季を感じることができます。

こうした将来像を目標に、日々の生活や事業活動が、大気や水、そして多様な生き物を含む自然環境にどのような影響を与えているかを一人ひとりが理解し、知恵を出し合い、互いの活動に合わせた環境保全の取組みを維持・継続させ、健康を享受できる地域の生活環境の保全を目指します。



エネルギーやものを大量に消費する私たちの毎日の暮らしが、大気汚染、水質汚濁といった身近な環境問題から地球規模の環境問題までを引き起こしています。

一方、目黒区では、大気環境や騒音・振動などの問題が、依然としてあります。また、緑地の減少、それに伴う生き物の減少など、自然が失われつつあります。

このような状況に気づき、暮らしの中に環境配慮行動を取り入れ、「暮らしの中から環境を守りはぐくむ」ことが重要です。

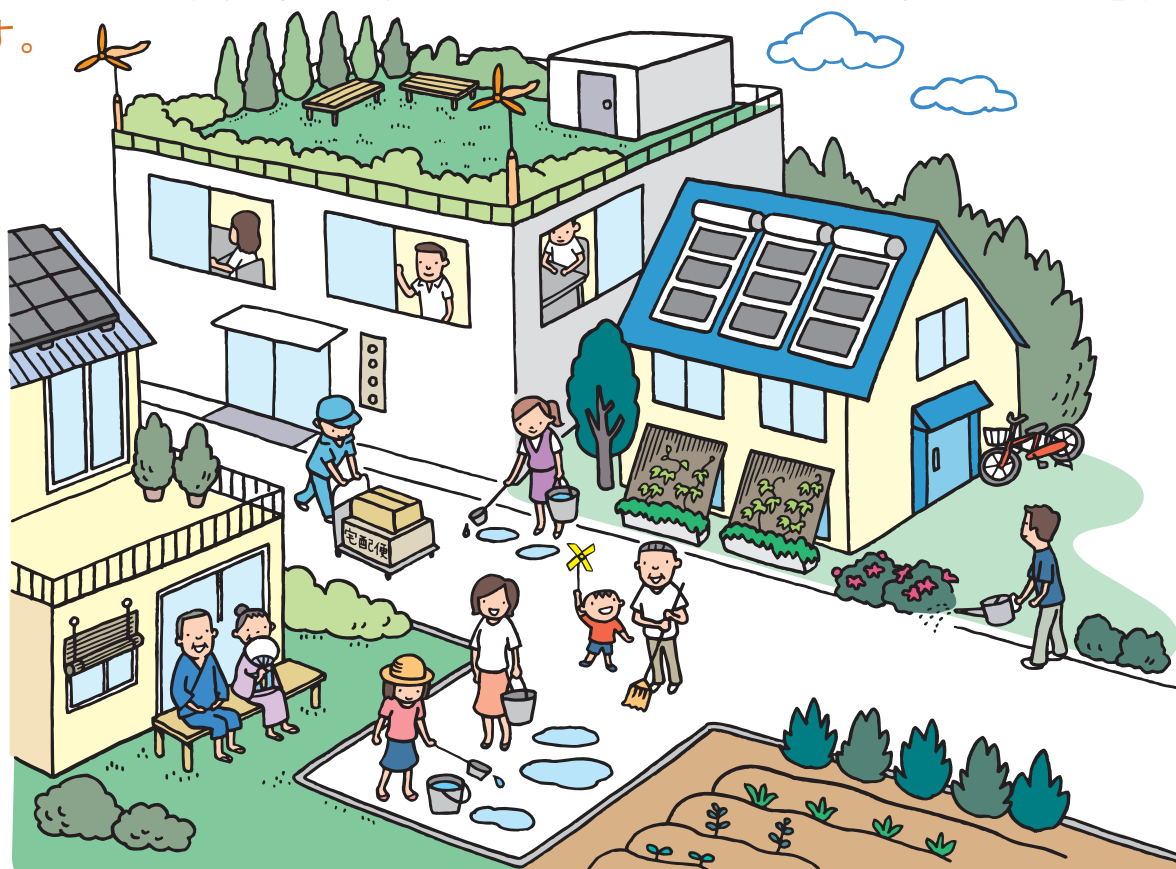
基本目標1では、区民や事業者が、環境問題を暮らしの中にみられる身近な問題（空気、水、みどり）として捉え行動できるように、生活環境や都市環境の保全に関する取組みをまとめ、目標を「暮らしの中から環境を守りはぐくむ」とします。

基本目標 2 「身近な行動から環境を守りはぐくむ」

イメージ・ビジョン

地域に住むみんなで、環境のことを考え、安らぎのあるまちづくりに取り組んでいます。将来の目黒区、地球の環境のことを考えた暮らしが営まれています。

こうした将来像を目標に、環境にやさしいまちづくりに向けて、お互いが協働して環境配慮に取り組むためのルールを定着させ、まちの美観を維持していきます。そして、地域や地球にやさしい地域社会の形成を目指します。



今、「ものの豊かさ」から「こころの豊かさ」を大切にした[※]LOHAS（ロハス）、[※]スローライフなど「健康で、環境にやさしく、ゆったりと暮らす」ライフスタイルへ転換する人が増えてきています。こうした生活を楽しめるよう、私たちが手を取り合って安らぎのある環境にやさしいまちに変えていかなければなりません。清潔で美しいまちを目指した路上喫煙規制などの取組みや、ごみを出さない区独自のしくみであるめぐろ買い物ルールの取組みをさらに発展、推進していくことが重要です。

これまでの意識を転換した目黒区の環境ルールをつくり、一人ひとりの「身近な行動から環境を守りはぐくむこと」が必要です。

基本目標2では、環境に対する取組みを一人ひとりの身近な行動として捉えられるルールづくりに関する内容として、まちの美化に関するもの、ごみの問題に関するもの、ライフスタイル（地球温暖化、ヒートアイランド現象などを視野にいった新しい暮らし方）に関する取組みをまとめ、目標を「身近な行動から環境を守りはぐくむ」とします。

基本目標 3 「環境を守りはぐくむ人づくり」

イメージ・ビジョン

私たちは一人ひとりが手を取り合い、環境を守りはぐくんでいます。このすばらしい環境を、今後も守りはぐくんでいくため、将来を担う人を育てています。

こうした将来像を目標に、環境への気づき、意識改革、行動の変化をもたらす、学習や体験の機会を増やしていきます。そして、環境学習の場だけでなく、日常生活の場においても、お互いが環境をテーマに情報交換や行動ができる環境コミュニティづくりを醸成し、地域の「環境力」を高めていきます。

「環境力」とは
コラム p16



私たちの行動が、自分だけでなく世界の人々の暮らしに、そして現在だけでなく未来の人々の暮らしに影響を及ぼすということを認識する必要があります。

環境保全の大切さや環境問題の現状を知り、環境保全活動を身につけてもらうために“気づき”、“知恵づくり”、“人育て”を念頭に、人づくりに取り組んでいきます。さらに区民自身が環境保全活動のリーダーとなり、積極的に環境保全に関わる人材を育てていくための取組みを進める必要があります。

これらの取組みをさらに充実、拡大して、「環境を守りはぐくむ人づくり」を進めていくことが重要です。

基本目標3では、基本目標1と基本目標2の実現に向け、協働による地域社会をつくるための環境教育・学習の推進に関する取組みをまとめ、目標を「環境を守りはぐくむ人づくり」とします。

コ・ラ・ム

環境力とは・・・

環境力とは、地域（区民、事業者、区等）が一体となり、環境配慮行動を展開する力のことをいいます。

区民や事業者の環境意識の高まりと、区の環境に配慮した施策の推進が、ライフスタイルやビジネススタイルを、環境への配慮を基本的な視点としたものに変えていくことにつながります。

その結果として、地域が一体となって環境にやさしい地域社会を形成していかうとする意識や行動力がより一層高まっていきます。

環境学習の実行計画として策定した「目黒区環境学習推進計画」（平成18年3月策定）は、地域の環境力を高めるため、区内に在住・在学・在勤する区民・事業者全般を対象に、〈気づき〉〈知恵づくり〉〈人育て〉〈啓発〉の4要素を取組みの柱として、環境活動の担い手や継続的な環境学習活動の輪が広がることをねらいとしています。